

## ナイロビ日本人学校への編入学をご検討のみなさまへ

本校に在籍するお子さんの保護者や卒業生・同窓生の声をご覧ください。

# ナイロビ日本人学校と私 (No.1)

## PTA 会長の独り言

私、久下がPTAの視点から、学校の良さをご説明いたします。ナイロビ日本人学校は小学部と中学部からなる先生8名、生徒22名（2019年11月時点）の小さな学校です。（この記事はPTA会長の独り言です。学校に責任はありません。）

### 1. 授業が一番

なんといっても売りは授業です。自ら海外で教鞭をとることを希望された志の高い先生から熱のこもった授業を受けられます。教える技を高めるため、先生同士が互いの授業を見て意見交換する力の入れよう！

生徒が少なく、一人一人のつまずきにきめ細かく対応できますので、成績の伸びがそれはもう。日本のカリキュラムの強みで、インターナショナルスクールに比べ、理数系の伸びがそれはもう。もちろん日本語もたっぷり勉強できます。（宿題は多いぞー、子供たち）



### 2. 一人一人に目が届く温かさ

先生に対する生徒の少なさに、日本から来た生徒はびっくりしています。いじめなんて話は聞きません。校舎、校庭もどこか昭和な雰囲気。あったかな学校です。（校庭が広いぞー、子供たち）

日々の学校の様子は以下のページでご覧いただけます。

ナイロビ日本人学校ブログ <http://njs2011.blog55.fc2.com/>

### 3. 一体感

この人数ですので、先生、生徒、PTAの一体感がすごいのです。特に月一の「オヤジの会」では、先生とPTAのオヤジ（自称オヤジ系女子も参加中！）たちがビール片手にバカ話、、異業種ネットワークを広げています。今年は学校で泊まろう会をやっちゃいました。（来年もやるぞー、オヤジたち）



### 4. インターナショナルスクールとの比較

日本人が通っているインターナショナルと授業料を比較すると以下のとおりです。（聞き取り調査によりますため、不正確な記載があれば申し訳ございません。）

ナイロビ日本人学校	A スクール	B スクール
入学金：約 6 万 6 千円	登録料：約 2 千円	登録料：約 105 万円
年間授業料（スクールバス代込）	年間授業料	年間授業料
小学部：約 78 万円	小学部：約 150 万円	小学部：約 280 万円
中学部：約 81 万円	中学部：約 160 万円	中学部：約 310 万円

英語はフルタイムのインターナショナルスクールには全くかないませんが、小1からケニア人先生2名が英語の授業をしてくださいます。インターナショナルスクールからお子さんを転校させたママの感想は、Jambo7月号をご覧ください。

学校のことでも、ケニアの生活のことでも、なんでも結構です。  
お問合せ下さい！

（ナイロビ日本人学校アドレス [njs.main@gmail.com](mailto:njs.main@gmail.com) ）

令和元年度 PTA 会長 久下 勝也

# ナイロビ日本人学校と私 (No. 2)

## 保護者からのメッセージ

今年4月から、息子が今まで通っていたインターナショナルスクールを辞め、ナイロビ日本人学校に入学しました。違う2つの学校を経験して感じる「ナイロビ日本人学校」の特徴について、今回ご紹介したいと思います。

日本人学校って、日本の小学校に通わせるのとそんなに変わらない！？というイメージを持っていましたが、息子を入学させて色々ビックリ！日本にある小学校とも全く違う、インターナショナルスクールとも違う、唯一無二の教育環境に驚き感動する毎日です。少しばかりですが、この面白い教育環境を皆さんに知っていただくべく、保護者の立場から見た日本人学校ビックリ、ユニークポイントについてご紹介したいと思います。

### 1. 先生、生徒、親との距離感

やっぱり（双方の距離感が）近いですね。小さな学校ですので、学年の上の子が、下の子をお世話する、身近に手本となるお兄ちゃん・お姉ちゃんがいるという非常にユニークな環境だと思います。私自身も、先生との距離が非常に近い！と驚きました。「学校であったこと」「こんな風に過ごしている」「こんないいことをしたから家で褒めてあげてくださいね」といったことも頻繁に先生から聞けます。それにより私自身も家で息子とより深いコミュニケーションが取れるようになりました。

先生も親もしっかりと受け止めてくれているという安心感からか、入学してから息子の顔つきがしっかりした、と色々な方々から言ってもらえるようになりました。

## 2. 毎日がプレゼン、個性爆発

1 クラス数人の世界。全校生徒 20 人強。授業参観に行っても驚きましたが、1 時間の授業の中で、各生徒が発言する機会が必ず複数回ありました。自分の解答を黒板に書いて皆に説明する。何が違うか比較しながら議論する。そんなことが当たり前に行われている日々です。単純計算で、先生 1 名に対し、生徒約 3 名。

目の行き届く環境で、子供たちの個性が爆発。ちょっと内気な我が息子も自分を 300% 出し、それを受け入れてもらえるという環境が、毎日楽しくて仕方ないようです。



## 3. 国語と算数

私自身は日本で生まれ育ったので、自身の経験として小学校低学年の勉強が大事と思った記憶はありませんでした。しかし、海外で暮らしながら息子の成長と学ぶプロセスを見ていると、国語と算数の基礎をしっかり低学年で身に着けることが非常に大事だと感じます。日本人学校では、算数のカリキュラムを通じて低学年に「数字の概念」まで叩き込んでくれるのは本当にありがたいと感じます。また、日々の忙しい時間の中で日本語の読み書きをしっかり見てあげることもできず、学校でしっかり読み書きを学んでくれるのは本当に助かります…心の負担が一気に減りました。

インターナショナルスクールに通わせていた経験上感じるのは、日本人学校に通っているからといって、子供たちの視野が日本という世界だけに留まっていないということです。学校活動ではケニアの小学校との文化交流も頻繁にあり、自身のアイデンティティを築きながら彼らなりに「異文化」、また「世界」に対する価値観を日々醸成しているのだなと感じます。

まだまだ語り足りませんが、これから卒業生、保護者等様々な立場から日本人学校体験談が紹介されます。是非、それを通してナイロビでのびのびと 50 年間培われてきた日本人学校の教育のユニークさ、素晴らしさを皆さんにより知っていただけたらと思います。 (小学 1 年生保護者 A・N)

# ナイロビ日本人学校と私 (No.3)

## 卒業生・転出生・保護者の声

一昨年度本校を卒業・転出した姉妹と母親が、夏休み中に日本から遊びに来てくれました。せっかくの貴重な機会ですので、お話を伺いました。

**校長** 日本人学校に遊びに来てくれてありがとうございます。日本の学校はどうですか？

**妹** 「日本でも友達とドッチボールをして遊んでいます。でも、日本は今とても暑いので、外ではあまり遊べません。」

**姉** 「私が通っている日本の高校は、多くの国から帰国生がたくさん集まっています。いろいろな国の良さなどを直接聞くことができるし、私もケニアで体験したことを話しています。とても楽しいですよ。」



**校長** 日本人学校での一番の思い出は何ですか？

**妹** 「私は、キャンプが楽しかったです。友達とテントの中で、夜遅くまで話をしたりしたことが思い出に残っています。」

**姉** 「最後の運動会が一番の思い出です。副団長だったんですけど、小学校低学年の児童に踊りや応援を教えることにとても苦戦しました。でも、小さい子と関わることができたのは、日本人学校の良さだと思います。」



母 「普通の学校は横のつながりが強いですが、日本人学校は縦のつながりがとても強いですね。今も、日本に帰ってからもみんなが集まるんですよ。」

校長 「日本人学校でのつながりは、卒業後、帰国後も強い結びつきがありますよね。」

### 校長 日本人学校で学んだことは何ですか？

姉 「エイズに感染している子ども達が暮らす施設での職場体験での学びが今でも生きています。施設に暮らす子ども達にインタビューをしながら、『幸せ』とは何かを考えました。幸せは、物の豊かさや環境ではなく、自分が幸せをどう感じるかが大切であるということを知り、学習発表会でも発表しました。」

校長 「学習発表会では、中学生が職場体験や調べ学習を通して学んだことを自分の言葉で堂々と発表していたことを覚えています。今でもその時の学びが生きているのは、とてもうれしいことですね。」

### 校長 最後に、日本人学校の良さってどんなところでしょうか？

妹 「私は、少ない人数だけど、みんなと楽しく遊べる場所だと思います。みんなと友達になれることが、一番良かったことです。」

姉 「毎日毎日が楽しかったところです。学校も、バスの中も、いつもみんなと歌ったり、遊んだり、そんな日本人学校での生活がとても楽しかったです。私の同級生もみんなケニアに戻りたい、中学生の頃に戻りたいって言うんですよ。」

母 「親としては、子ども達の頑張りを目の当たりにできることが、大きいですね。感動も違います。日本人学校では、自分の子どもの成長だけでなく、他の子どもの成長も見られて、感動もより大きいですね。学校との関わりも濃く、充実感もあるそんな経験ができました。」

校長 「今日は、本当にありがとうございました。また、ぜひ日本人学校に遊びに来てください。」

(現小学5年生、現高校2年生、保護者、校長)

本校を卒業・転出した子ども達と保護者が、再び本校を訪れて元気な様子を聞かせてくれるのは本当にうれしいものです。開校以来50年、約1200名もの本校卒業生・同窓生の多くが、今も日本やケニア、そして、世界各国で活躍しています。